

(5) HIV陽性者と薬物使用者への支援策と感染・薬物使用予防策の検討

■ 研究分担者：樽井 正義(特定非営利活動法人ふれいす東京)

■ 研究協力者：生島 嗣(特定非営利活動法人ふれいす東京)

徐 淑子(新潟県立看護大学)

田中 五八生(新潟ダルク)

林 神奈(サイモン・フレーザー大学)

山本 大(特定非営利活動法人アパリ、藤岡ダルク)

松本 俊彦(国立精神・神経医療研究センター)

金子 裕亮(新潟刑務所処遇部企画部門)

研究要旨

「健康問題」としての薬物使用に対応するためにどのような情報提供が必要か。本研究では、健康危害である感染を予防する情報の提供は、ハームリダクションとして必要であるという方針の下、前年度に情報提供資料の作成等を行った。今年度は、研究班で作成した情報提供資料の配布経路開拓に着手した。より直接的に、対象とする人たちに資料を届けるため、追跡研究『声の架け橋プロジェクト』の協力を求めた。同プロジェクトを通して、保護観察処分となった薬物事犯者宛てに、資料を配布する経路の一つを得たが、実際に、対象とする人に資料が届くのは、来年度からになる見込みである。今回開拓の経路の他、どのような経路が考えられるか等、継続して検討する必要がある課題が残された。その他、援助者ヒアリングから、対象に届きやすい言語表現のあり方、援助者に向けた継続的な情報アップデートの必要性等が示された。

A 研究目的

「健康問題」としての薬物使用に対応するために、どのような情報提供が必要か。本分担研究では、研究活動の枠組みを「薬物使用にかかわる情報提供：だれに、なにを、どう伝えるのか」と定め、各年度の活動に取り組んできた。

最終年度である2023年度は「薬物使用の可能性のある人」へ、情報を届けるための経路について検討し、研究班の成果物である情報提供資料『知っていただきたい感染症があります』の配布経路開拓に着手した。また、援助者／当事者を対象に意見聴取し、作成した資料について評価を行った。

B 研究方法

(1) 前年度までの研究結果を再検討・統合し、本研究で行う情報提供の方針を定めた。

(2) 目標とする対象(「薬物使用の可能性のある人」)に、より直接的に情報提供資料を届けるために『声の架け橋プロジェクト(Voice Bridges Project: VBP)』¹⁾(研究代表者・松本俊彦)と協議・調整を行い、配布に向けて準備を整えた。

(3) 薬物使用者を対象とする支援を行う団体・専門機関を訪問し、情報収集およびヒアリングを行った。

C 研究結果

(1) 情報提供の方針

① 情報提供の対象

2021年の研究成果²⁾より、薬物使用者(薬物を使用したことのある人)の中には、薬物を「使い続けたい人」「減らしたい人」「止めたい人」の三つが含まれるとした。また、薬物使用と感染症リスクとの関係では、覚せい剤使用経験者において、注射器使用、性交場面での使用、HCVの既往というリスク要因との関連が確認された。

同じく、2021年の研究成果より、情報提供の対象を「薬物使用の可能性がある人」と定めた。また、対象人口を20万人と見積もった。

② 位置づけおよび方向性について

IEC(情報提供・教育・相談、Information, Education, Counseling)は、公衆衛生における基本の働きかけである。前年度までの研究成果より、健康危害である感染を予防する情報の提供は、ハームリダクションとして必要であると判断した^{3), 4)}。

③ 提供する情報の内容について

「薬物使用の可能性がある人」に必要な健康情報として以下の2つを定める。

- ・「安心してつながれる場所」の情報
- ・薬物使用に関わる感染症の情報・予防の情報

(2) 情報提供資材の配布経路について

① 2021年度、2022年度の研究結果から、薬物使用者への直接的アプローチ(アウトリーチ)の方法は限られており、情報提供の経路を開拓する際には、刑務所や保護観察所と協力関係にある回復施設(ダルク等)職員、薬物使用を健康問題と捉えている医療者(拠点病院医療者等)との連携が必要と判断した。

② 2022年度に、配布の具体的方法として「声の架け橋プロジェクト(Voice Bridges Project: VBP)」との連携・協力を候補とした。「声の架け橋プロジェクト」は保護観察処分となった薬物事犯者(規制薬物の使用または所持で有罪となった者)を対象とする追跡調査として、2017年3月より実施されている研究プロ

ジェクトである。

2023年度は、同プロジェクト研究代表者と協議し、調査対象候補者全員に配布される資料一式(封筒に、調査協力依頼書や研究説明書、各種案内や啓発資材を取りまとめたもの)の中に、本研究作成の資材を同封させてもらうことを決定した。

ただし、同封は、次回補充時より行うため、実際に、対象とする人に資材が届くのは、来年度からになる見込みである。

したがって、今年度は同プロジェクトを通じた配布経路を確保したところまでが、活動の成果となる。今年度研究で確保した経路により、どの程度の人に情報が行き渡るのかについては、継続検討する。

また、本研究では、情報提供の対象を「薬物使用の可能性がある人」とし、その規模を20万人と見積もっている。今回の経路以外にも継続して開拓する必要がある。

③ その他、間接的な配布経路として、薬物使用者の回復支援・治療を提供する団体・諸機関の求めに応じて資材を提供した。また、特に対象を定めない配布経路として、研究班のウェブサイト上に、資材のファイルを掲載し⁵⁾、オンラインであるいはダウンロードして、だれでも利用できるようにした。

(3) 情報提供資材『知っていただきたい感染症があります』に対する評価

援助者/当事者(ダルク職員、刑務所教育専門官他)にヒアリングを行い、本研究班作成の情報提供資材について評価してもらった。また、薬物事犯者を対象とした刑務所研究授業の参観・所内テキストの閲覧を行い、それらから得られた情報を参照した。その結果、以下のようなことが示唆された。

① 言語表現への配慮

漢字にふりがなを付して読みやすくすること。外来語やアルファベットを用いた表現については、わかりやすい言い換えや説明があった方が好ましい場合もある。

② スマートフォン等への対応

紙媒体は処分も容易で、手元に残りにくい。特に、刑務所出所時など、手渡される資料が多い時に処分されやすい。スマートフォンを活用することが勧められ

る。たとえば、最初は紙媒体手渡しでも、研究班ウェブサイト上の pdf ファイルに誘導する QR コードを付して、そこから、各情報源の URL を踏めるようにするなど。

(4) 援助者に向けた継続的な情報アップデートについて

2021 年から 2023 年度にかけて実施した援助者ヒアリングから、援助者の側も、HIV に関わる最新の情報や、感染予防情報が不足していることが示された。援助者に向けた情報提供については、2019・2020 年度にも検討し、情報提供資料の制作と配布を行ったが(『医師、看護師、心理職、ソーシャルワーカーが身近な人から薬物使用について相談されたら 3』)⁶⁾、継続的な情報アップデートの機会創出が、課題として示唆された。

D 考察

過去を振り返ると、2004 年「個別施策層に対する固有の対策に関する研究」研究班(研究代表者・樽井正義)が、ハームミニマイゼーション(ハームリダクション)という用語を用いて、薬物使用者に向けて HIV 予防の方法を説明する情報提供資料を作成した⁷⁾。だが、資料作成後の内容評価調査から「ニーズがない」とされ、実際の配布には至らなかった。ところが、2018-2020 年度「地域において MSM の HIV 感染・薬物使用を予防する支援策の研究」(研究代表者・樽井正義)が行ったダルク(薬物依存症回復支援施設)の調査では、HIV 陽性者受入経験のある施設が、回答施設の 73.5% を数え、施設によっては研修等を行っていた。また、刑務所や保護観察所でも、独自に作成する所内教育テキスト等で、薬物使用と感染症を取り扱う例がすでにある。このように、薬物使用者の直接支援を行う場面では、2004 年当時から 10 年程度の間で、HIV/AIDS 予防が課題として前景化している。それに合わせて薬物使用と感染症予防にかかわる情報ニーズも変化していると思われる。状況変化を踏まえた IEC (情報提供・教育・相談)を、より積極的に展開する段階に来ていると推察する。

E 結論

本研究は「薬物使用の可能性のある人たち」を対象に、HIV やその他の感染症についての情報提供を、ハームリダクションとして必要と位置づけ、その方途を画策した。今年度は、対象に直接配布することのできる経路の一つを確保し、配布準備を整えたところまでを行った。効果や、配布経路のさらなる開拓は継続検討とする。また、本研究の援助者ヒアリングからも示されるとおり、薬物使用者に加え、援助者の側にも最新の医療状況を踏まえた情報アップデートのニーズがあると示唆された。

<引用文献>

1. 松本俊彦, 保護観察の対象となった薬物依存症者のコホート調査システムの開発とその転帰に関する研究, 令和 4 年度厚生労働省依存症調査研究事業「保護観察の対象となった薬物依存症者のコホート調査システムの開発とその転帰に関する研究」(研究代表者 松本俊彦) 研究報告書, 1-43, 2023.

https://www.ncnp.go.jp/nimh/yakubutsu/report/pdf/R4_matumoto.pdf

2. 樽井正義, 生島嗣, 徐淑子, 林神奈, 山本大, HIV 陽性者と薬物使用者への支援策と感染・薬物使用予防策の検討, 厚生労働科学研究費補助金エイズ対策研究事業「地域において MSM の HIV 感染・薬物使用を予防する支援策の研究」(研究代表者・樽井正義) 令和 3 年度総括・分担報告書, 67-72, 2022.

https://chiiki-shien.jp/admin/wp-content/uploads/R03hokoku_05.pdf

3. 樽井正義, 生島嗣, 徐淑子, 田中五八生, 林神奈, 山本大, HIV 陽性者と薬物使用者への支援策と感染・薬物使用予防策の検討, 厚生労働科学研究費補助金エイズ対策研究事業「地域における MSM の HIV 感染・薬物使用予防策と支援策の研究」(研究代表者・樽井正義) 令和 4 年度総括・分担報告書, 95-99, 2023.

https://chiiki-shien.jp/admin/wp-content/uploads/R04hokoku_05.pdf

4. Hayashi K, Wakabayashi C, Ikushima Y,

Tarui M. Characterizing changes in drug use behaviour following supply shortages of 5-MeO-DIPT, alkyl nitrites and new psychoactive substances among men living with HIV in Japan. *Int J Drug Policy*. 2023 Aug;118:104080. <https://doi.org/10.1016/j.drugpo.2023.104080>

5. 令和3～5年度厚生労働科学研究費補助金(エイズ対策政策研究事業)

「地域におけるMSMのHIV感染・薬物使用予防策と支援策の研究班」, 知っていただきたい感染症があります, 地域におけるHIV陽性者等支援のためのウェブサイト <https://chiiki-shien.jp/tool/doc/yakubutsushiyousoudan4> (2024年3月1日確認)

6. 令和3～5年度厚生労働科学研究費補助金(エイズ対策政策研究事業)

「地域におけるMSMのHIV感染・薬物使用予防策と支援策の研究班」, 医師、看護師、心理職、ソーシャルワーカーが身近な人から薬物使用について相談されたら3, 地域におけるHIV陽性者等支援のためのウェブサイト, <https://chiiki-shien.jp/tool/doc/yakubutsushiyousoudan3> (2024年3月1日確認)

7. 山野尚美, 榎本てる子, 西田淳志, Sandra Kimball, 薬物使用者に関する対策の研究, 厚生労働科学研究費補助金エイズ対策研究事業「個別施策層に対する固有の対策に関する研究」(研究代表者・樽井正義)平成16年度総括・分担報告書, 117-151, 2004.

F 研究発表

Hayashi K, Wakabayashi C, Ikushima Y, Tarui M. Characterizing changes in drug use behaviour following supply shortages of 5-MeO-DIPT, alkyl nitrites and new psychoactive substances among men living with HIV in Japan. *Int J Drug Policy*. 2023 Aug;118:104080. <https://doi.org/10.1016/j.drugpo.2023.104080>

G 知的財産権の出願・登録状況 (予定を含む)

1. 特許取得

なし

2. 実用新案登録

なし

3. その他

なし

(資料)知っていただきたい感染症があります。

知っていただきたい 感染症があります。

薬物使用に関連してとくに気をつけたいのは、HIV感染症とB型肝炎、C型肝炎です。
感染して重症化すれば、HIVは肺炎などの感染症や悪性腫瘍などを起こし、
肝炎は肝硬変から肝がんに進み、ともに生命に関わることもあります。

どのように 感染するのか

- ① 薬物を注射で使用するとき、他の人が使った注射器・注射針を使うと、
- ② 薬物を使用してセックスするとき、コンドームの着用がおろそかになると、他の人の血液・体液に含まれる原因ウイルス（HIV、HBV、HCV）が自分の体のなかに入り、感染することがあります。

どうしたら 感染を防げるのか

- ① 他の人が使った注射器・注射針を使わない、注射をしない、
- ② 必ずコンドームを使う、これをお勧めします。

治療の進歩

B型肝炎ではウイルスが増えるのを抑えることができます。
C型肝炎ではウイルスを体内からほとんどなくすることができます。
HIV感染症ではウイルスが増えて発症するのを抑え、きちんと治療を続けていればセックスで感染させることはありません。

感染しているかいないか、 どうしたらわかるのか

感染しても気づかないことがあるので、検査を受けることをお勧めします。早期に感染が分かれば、治療を受けることができます。感染してないと分かれば安心し、気をつけることができます。

HIV検査は、全国の保健所や自治体の特設検査施設で、無料・匿名で受けられます。
HIV検査・相談マップ
<https://www.hivkensa.com>
「B型肝炎」「C型肝炎」、また「梅毒」の検査施設も、キーワード検索できます。

感染症と治療の情報

HIVマップ <https://hiv-map.net>
HIV／エイズガイド
HIVポジティブを支える社会制度
なるほどB型肝炎 <https://hbv-pt.jp>
B型肝炎とは 医療費助成について
C型肝炎サポートネット
<https://cgatakanen-support.net>
C型肝炎とは 医療費助成が受けられます

制作：令和3～5年度厚生労働科学研究費補助金
(エイズ対策政策研究事業)
地域におけるMSMのHIV感染・薬物使用予防策と支援策の研究
(代表：樽井正義)
地域におけるHIV陽性者等支援のためのウェブサイト
<https://www.chiiki-shien.jp>
問い合わせ先：特定非営利活動法人ふれいす東京 研究・研修部門
research-office@ptokyo.org
〒169-0075 東京都新宿区高田馬場4-11-5 三幸ハイツ403
発行：2023年2月

(資料)知っていただきたい感染症があります。

安心して話せるところ、 困りごとを相談できるところがあります。

薬物に関わることは一人の手には余るのに、なによりも人には話しにくい、
また、人はそれぞれですから、あうこと、あわないこともあるでしょう。
しかし、とじこもらず、話をしてみることをお勧めします。

NPOによる相談

OKチャット <https://hrtokyo.net/okchat>
クスリ・ドラッグ・薬物を使うことがある、と安心して話せるチャットです。

LINE・ツイッター・テレグラムで対応
月・火・木・金 14:00~18:00

ぶれいす東京 <https://ptokyo.org>
HIVとセクシュアルヘルスに取り組むNGOです。
HIV陽性者専用 ☎ 0120-02-8341
月~土 13:00~19:00
事務所 ☎ 03-3361-8964 月~土 12:00~19:00

自助グループ

ナルコティクスアノニマス日本
地域に根ざした当事者によるミーティングを、全国で200以上のグループが毎週行っています。メンバーに求められるのは、使うのを止めたいという願望だけです。
全国NAミーティングリスト
http://najapan.org/pdf/NALIST_J.pdf

回復支援施設

ダルク
薬物からの回復を支援するプログラム(入所・通所)を、全国約70の施設が独自に行っています。
日本全国のマック/ダルク所在地 日本ダルク
<http://darc-ic.com/darc-list>
施設一覧 日本カトリック依存症者のための会
<http://jcca-catholic.jp/shisetsu.html>

ダルクマッチングサポート アパリ
6つのダルクの中から最適の受け入れ先を紹介します。
<https://apari.or.jp/matching>
☎ 03-5925-8848 月~土 9:30~17:00
info@apari.or.jp

ダルク女性ハウス

女性専用施設です。
<http://womensdarc.org>
☎ 03-3822-7658 月~金 10:30~16:00

行政による相談

都道府県と指定都市の精神保健福祉センターで、薬物使用について相談できます。
全国の精神保健福祉センター一覧
<https://www.zmhwc.jp/centerlist.html>

情報サイト

ASK
アルコール、依存性薬物、様々な依存関連問題の予防
<https://www.ask.or.jp>

HIVマップ
こころのケア・薬物・アルコール
<https://www.hiv-map.net/navi/mental-care>

Futures JAPAN
ドラッグ(薬物)を使用している人へ
[https://futures-japan.jp/pickup/ドラッグ\(薬物\)を使用している人へ](https://futures-japan.jp/pickup/ドラッグ(薬物)を使用している人へ)

Stay Healthy and be Happy
身近な人から薬物使用について相談されたら
<https://stayhealthy.tokyo>

PrEP in JAPAN
プレップ(HIV予防内服)について
<https://prep.ptokyo.org>